

No. 92

2014年 (平成26年)

3月1日

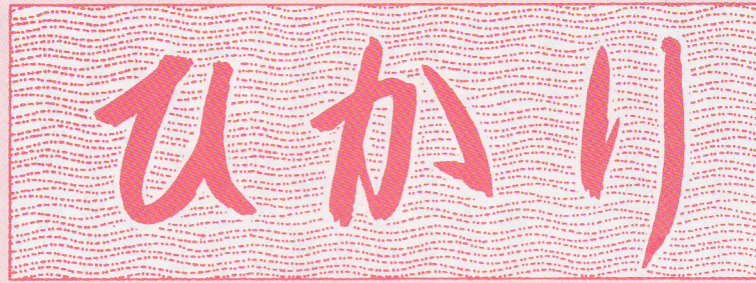
発行

浄土真宗本願寺派

和歌山教区日高組

責任者

片桐 淨映



才市や何処におる
浄土貫うて娑婆におる
これがよろこび
ナムアマダブツ

妙好人 浅原才市翁



第19回 日高組真宗法座

阿弥陀經に聞く

「舍利弗、われいま諸仏の不可思議の功徳を称讚するがごとく、かの諸仏等もまた、わが不可思議の功徳を称説して、この言をなさく。釈迦牟尼仏、よく甚難希有の事をなして、よく娑婆国土の五濁悪世、劫濁・見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁のなかにおいて、阿耨多羅三藐三菩提を得て、もろもろの衆生のため、この一切世間難信の法を説きたまふ、と」

ここからは、おしゃカ様と諸仏がお互いにほめあっているところです。そうして、信心を更に勧められるのです。

諸仏がアマダさまをほめているのは東南北下上方の仏さまのところにありました。おしゃカ様も諸仏と同じくアマダさまのすばらしさを褒め称えているところです。二つの難が説かれている。成仏と説法の難です。

成仏とは、亡くなることではなく、仏になることです。ここでは、五濁悪世に仏になることは難しいということなのです。

「五濁悪世」とは、劫濁・見濁・煩惱濁・衆生濁・命濁のことで五つの濁りにみちた悪い世の中のことです。

劫濁とは、時代の濁りです。戦争、疫病、飢饉、天災などが増大するということ、まさにいま、テロの恐怖や地球温暖化など、世界規模で不安をかかえています。見濁とは、思想の濁りで、よこしまな思想、かたよった見方のことです。また、自己中心的な人が増えています。道ばたに座り込む、電車の中で化粧をする、携帯電話やメールをする、飛行機内で酔って暴れる中年男性、いったいどうなっているのでしょうか。公の場と私的な場の区別がつかない人が増えているように思います。

(永原智行)

命の花

去年の暮れ、テレビのニュースで高校女子の活動について放送されたので、内容をメモしました。

彼女達の話し合いから始まります。彼女達は動物好きです。人間の都合で捨てられた動物が保護されている施設を見学することになりました。行きのバスの中は旅行気分です。保護施設に着き、担当者から説明を聞きました。動物達の命も最後は処分されると知りショックを受けます。帰りのバスの中は、重苦しい雰囲気です。

学校に帰って五、六人の生徒は命について考えます。先生から骨が肥料となることを聞かされます。生徒達は、骨を肥料とし、花を植えようと決め、それをレンガで砕く作業にかかります。涙を流しながら、砕いた骨を少しずつ鉢にまきます。種を植え、水をまき命の花を育てます。

後日、花の咲いた鉢植え

を地域の人に配る活動をしていることを知りました。きつと、その生徒達は心に安らぎを感じたことでしょう。

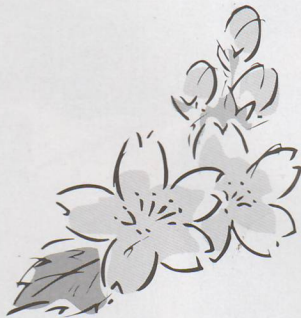
阿弥陀如来は「一切の衆生を救う」と言われました。「教行信証」に「諸有の人民、蜻蛉(空を飛ぶ虫)、蠕動(うごめくうじ虫)の類まで救う」(真仏土文類より)と言われています。

また、植物なども救われます。草などは、地面で育ちますが、寒さに耐え、足でふまれても、根があるから逃げることはできません。それでも、耐えて小さな花を咲かせて見せてくれます。九条武子様の詩に「見づや君、明日をちりなんの花だにも、力のかぎり一時を咲く」と歌われています。私達に生きる力を与えてくれるようです。

親鸞聖人のご和讃の一つに「十方微塵世界の念仏の衆生をみそなわし、攝取してすてざれば阿弥陀となづけたてまつる」とあります。これを聴聞するとき、煩惱多きこの私までもが、本願力によって信心を恵まれ、

「どんなことがあってもお前を救う」と呼んで下さるお心をいただけたと感ずるのです。毎日が安らかにすごせると、いただくばかりです。

(上西偕行)



法悦クイズ

浄土真宗の宗祖は誰ですか？
次の1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

- 1. 法然聖人 ほうねんしょうにん
- 2. 親鸞聖人 しんらんしょうにん
- 3. 日蓮聖人 にちれんしょうにん

91号の正解は、「3. 極楽浄土」でした。

正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

- | | |
|-------------|-------------|
| 由良町 上道千津代 様 | 由良町 中崎工三コ 様 |
| 由良町 小林 民子 様 | 由良町 川口アヤ子 様 |
| 由良町 磯寄美千代 様 | 由良町 坊岡 和美 様 |
| 由良町 浜上由美子 様 | 由良町 久保千代子 様 |
| 御坊市 塩田 廣一 様 | |

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成26年5月20日(必着)

※発表は次号

「いのちの日」

ご命日のおつとめ、あるいは、お速夜参りは月忌法要と申します。お速夜参りとは、命日の前日におつとめすることです。

速夜とは、もともと葬儀を行う日の前夜のことです。再びその身を見ることができなくなる「大切な夜」という意味から大夜と書いていました。その後、葬儀に速ぶ夜ということから速夜と書くようになりました。

特に、個人が亡くなった月の日の命日を祥月命日といいますが、「祥」の字は今は「さいわい」・「めでたい」という意味で儒教から出た言葉のようです。

また、年忌法要の「忌」は「いむ」とか「つつしむ」という意味で真宗では「つつしむ」の意味を用いています。「この日は身をつつしんで亡き人を偲び、忘れがちな後生の一大事を心にかけよ」のお催促を有難く頂く日であります。

ところで、この命日という言葉は文字通り「いのち

の日」です。考えてみますと、私たちは日々「いのち」の大切さをかみしめ、生きていくことのよろこびを感じながら生活しているのでしょうか。ついつい「いき

ているのがあたりまえ」と思い込んでいたのではないのでしょうか。そんな私たちに「いつまでもあるいのちではないぞ」「はかり知れない多くのいのちに支えられて、今生きていくんだよ」

「あみださまから救われてくれよとの願いのかかったいのちだから尊いのだよ」と、私に「いのち」のありがたさ、本当の姿を気づかせるために、亡き人が設けてくださったご縁が「いのちの日」、命日なのです。

ご縁のあった大切な肉親の方の死を悲しむばかりではなく、毎月の命日を通して、あみださまのお説法であるお経を依り処として「いのち」の本来のありようを聴かせて頂きましょう。

(荻野益次)



門徒心得

「中陰が三ヶ月にまたがると?」

毎月の半ばを過ぎてお葬式がありますと、中陰は三ヶ月にまたがります。

あるお家で、「母の四十九日の法要を早めにしたのですが」との相談がありました。

私は、「一人でも多くの方が参列される日を選んで頂いてもかまいません」と話すと、そんな理由ではなさそうと、早くする理由を尋ねると、「親戚の人達から四十九日の中陰が三ヶ月にまたがると悪いから早めにしたほうが良いと言うのです」とのことでした。よく聞くと、迷信の話となりました。どうして「四十九日の中陰が三ヶ月にまたがると悪い」と言われるので

しょう。それは、「始終苦(四十九)が身につく(三ヶ月)」

とよく言われています。まさに語呂合わせの迷信にすぎません。

中陰法要は、決して故人への追善、冥福を祈るためのものでありません。

肉親の死を悲しむ中から故人の遺徳を偲ぶと共に、仏縁をとおして私がお念仏の教えに出逢い、阿弥陀如来さまへの感謝の念を深めていたきたいのです。

お浄土へと先だった故人の仏縁です。迷信によって法要の日を変えるようでは、何のための法要なのかわからなくなりそうです。ただ、決まった四十九日目でないためですと言うことではありません。しかし、迷信によって日を変えることは避けて下さい。

せっかくの仏縁です。多くのご縁のある方と共に大切にお勤めしましょう。

(鈴木悟峰)



読者の声

※時が移り、過ぎ去っていくことのなんと早い事でしょうか。暑かった日々も過ぎ去れば一瞬であったような覚えです。今は快適、有り難いことと思えます。

※「ひかり」はいつもわかりやすく説明してくれているので、読むのが楽しみです。

※いつもひかりを拝見させていただき、ありがたうおもっております。

※「ひかり」を楽しく読ませて頂いています。

※法悦クイズいつも読ませてもらっています。

※今年も残り少なくなってきました。今年一年間お寺に元気にお参りできた事、うれしく思っております。来年も元気に参りましょう。

※問題はずかしく存じます。友達の意見に従って3にしましたが迷いました。

※問題はずかしく存じます。友達の意見に従って3にしましたが迷いました。

日高組寺院めぐり

覚性寺(由良町吹井)

第十四世住職

埜崎 教信

明応三年(一四九四)、

当寺の第一世祐正が、本願寺第八世蓮如上人の法話を聞いて浄土真宗に帰依し、同年四月八日、方便法身尊形(阿弥陀如来画像)を授かり、惣道場(念仏者の集会施設)を建立したのが覚性寺の開基となります。

寛永十二年(一六三五)一月、本願寺第十三世良如上人から木仏本尊阿弥陀如来を下賜され、また同時にその際「覚性寺」という寺号を公に名乗る事を許されました。この時に寺院として



覚性寺

の体が整った訳であります。本堂については、元々現存の地に建立されていた訳ではなく、元々は別の吹井の地にあったようです。

昨今南海沖地震の発生が叫ばれて久しいですが、宝永四年(一七〇七)十月、大地震があり、津波により本堂が流出。その後すぐに再建されず、約七〇年後の安永七年(一七七八)八月、津波を危惧し現在地である山手へ本堂が再建。その後、再建・補修を繰り返しながらも現在地に覚性寺は在り続けています。

当寺の年中行事としては、春・秋の彼岸会・盂蘭盆会・元旦会・報恩講が主なものであります。

また、一月又は二月に総報恩講として、本堂にて法要を勤修させて頂いております。

プロジェクトの柱であります第十九回真宗法座が十二月十四日午後二時から日高町小浦の円行寺に於いて開催され、組内僧侶・門信徒の方々約七十名が集まりました。今年は大阪教区の方哲爾師をお迎えし「お浄土にまいる」というお話を熱心に聴聞いたしました。

安方師は、お話の中で「お浄土に連れ還る」阿弥陀さまのご本願について、例えば母親が生まれたばかりの子を病院から自宅に連れて帰るように、阿弥陀さまは私たちが一度も行ったことのないお浄土に連れて還って下さると語られ、妙好人と呼ばれる先人達は阿弥陀さまのご本願を深く信じて生きてこられたことが、わかりやすいお言葉でお話しされた聞法の集いとなりました。

・日高組総代会後期研修会
開催日時・場所
平成26年1月25日(土)、午後1時30分
由良町里、蓮専寺
参加人員
各寺院の総代35名
講師
和歌山教区教務所長

鷹森別院輪番
高橋格昭師
研修テーマ
「お寺は変わる」
内容(主旨)
・過疎、少子高齢者地域における寺院の活性化に向けて
・以前に「お寺が消える」と話題になった時期がありました。山陰地方のお寺の現状をとらえた出来事でした。過疎によってお寺が解散に至ったのです。総代の役割として、宗教法人法のもと、寺則の目的に定められた、①教義をひろめる、②教化育成に關しても住職のみにまかすのではなく、総代さん方も係わり取り組むことができるのではないかと。昨年、各寺院に配布された冊子「ひろがるお寺」に活動事例が掲載されているので、ご住職に尋ねて下さい。

質疑応答の時間が設けられ有意義な研修会でした。

・実践運動推進委員会開催
日時 三月八日(土)
午後二時から
会場 小浦 円行寺

平成二五年度の総括と平成二六年度の計画について協議いただきます。委員各位にはご出席をお願いいたします。

・日高組「定期組会」開催
日時 三月二十九日(土)
午後二時
会場 志賀 妙願寺
組会に先がけ、寺族、門徒総代・責任役員の物故者追悼法要を行います。

その後、平成二五年度の事業報告・決算報告、次年度の事業・予算について、ご審議をお願い致します。各寺院の組会議員の皆様にはご出席頂きたく宜しくお願い致します。

・仏教婦人会総会・物故者法要
日時 四月二十九日(祝)
会場 由良地区予定

・法統継承式
西本願寺住職と浄土真宗本願寺派門主を務める大谷光真門主(68)が6月5日で両職を退任、翌6日に法統継承式を行い、大谷光淳新門主(30)が両職を継承、第25代門主に就任される。

日高組通信

☆行事報告

・真宗法座

日高組御同朋の社会をめざす運動(実践運動)重点

☆行事予定

・実践運動推進委員会開催

日時 三月八日(土)
午後二時から
会場 小浦 円行寺